



青森県立大間高等学校 生徒指導部通信

2024 年（令和 6 年）

12 月 20 日（金）

文責：田中大基

2024 vol.13

▼Contents

- 1 生徒会役員任命式報告
- 2 不安は自由のめまいだ

1 生徒会役員任命式報告

第五一期生徒会は五〇周年を超えた新たなスタートに立つ生徒会です。
新たな時代にふさわしい学校を作り上げてください！



11 月 5 日**生徒会役員任命式**に行われました。10 月に行われた生徒会役員選挙を受け、新生徒会執行部が誕生しました。前生徒会執行部の意思を受け継ぎ、大間高校生徒会活動を飛躍させてもらいたいです。

また、同日を以て前生徒会執行部 3 年生は勇退となりました。これまでお疲れ様でした。



朝の選挙運動。生徒に想いを訴える。



立会演説会。熱意よ届け！



校長先生から手渡された任命証。重さを実感。



拍手で見送られる前生徒会執行部員

2 不安は自由のめまいだ

自由であることは幸せか？

自由であるということは、善いことも悪いことも自分の決断次第でできてしまうということです。自分の決断は、自分や他人を混乱させたり、破滅させたりする可能性も握られている。その可能性と真剣に向き合うと、なんだかくらくらしてきませんか。

デンマークの哲学者キルケゴールは、その状態を「不安は自由のめまいだ」と表しました。



絶望



日常生活の中でも、私たちはときどき、「自由」から生じる不安を感じているはずです。「自由に話して」、「自由にやって」、などと言われて、かえって戸惑ってしまった経験は、きっと誰にでもあるでしょう。

自由は、何でもできるというよりは、何でも自分で決断しなければなりません。自分の決断が正しいのかと不安が生じ、うまくできないと落ち込んでしまいます。キルケゴールはこの状態を「絶望」と言いました。

「絶望」は3つの段階に分かれます。一つ目は「表面的な絶望」です。

不安を解消するため「今が楽しければいい」と考え、常に自分の外側から刺激を求めます。ただし、外からの刺激がなくなると不安が復活してしまいます。どんな状況でも笑いを取ろうとしたり、目立つ行動をしたり、自分より下だと思える人間を見つけようとしたり…。これでは、決して不安は解消されることはありません。



二つ目は、「逃避型の絶望」です。

変化を恐れ「自由も責任も知らない。他のことは何も聞こえない…」と、自分の心を閉じて逃れようとしてしまう。しかし、例え逃げたとしても自分が望む自分になれていない事実は残ったままです。かえって、新しい不安が重なり、常に苦しみは続いてしまいます。

三つ目は、「反抗型の絶望」です。

「自由も責任もおしつけるな！みんな社会が悪いんだ！」と、自分を今の自分にしたのは、自分の外に在るすべてのせいだと憤慨する。自分は被害者であるからこそ、他者を攻撃してもかまわないと思ってしまい、負の連鎖から抜け出せなくなってしまう状態です。

人間は誰もが自由でありながら、倫理的に生きていくことは難しいです。なぜなら、人間の能力は有限であり、すべてが自分の思い通りにならないからです。



絶望から解き放たれるには

キルケゴールは、人々が絶望から抜け出すには神への信仰しかないと言いました。「キリスト教徒でないけど…」そんな人は、自分自身を信仰してください。

自分を見失うよりも、自分を見つめ直しましょう。誰かが私を私にするのではなく、あらゆる選択肢の中で、私は私自身の意志で私になりましょう。自分が望む自分自身になるには、自分の力でただ前に進むしかありません。自分が好きだと言える価値観を見つけましょう。

日常生活の中には迷いもためらいもあります。逃げたくなります。人生で、困難や絶望にぶつかったときどう立ち向かったのか。自分の全能力をかけて、実存する自分の人生全てと戦わなければなりません。その中で「自分は〇〇な存在だ！」を発見しましょう。それこそが、キルケゴールが生涯を掛けて貫き通した「実存主義」であります。



キルケゴール
1813～55 デンマーク